

伊木力川水系河川整備基本方針

平成14年4月

長 崎 県

伊木力川水系河川整備基本方針

目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	1
(1) 伊木力川流域の概要 -----	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	4
1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 -----	4
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに 河川環境の整備と保全に関する事項 -----	4
3) 河川の維持管理に関する事項 -----	5
2 . 河川の整備の基本となるべき事項 -----	6
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 ---	6
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 -----	6
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る 川幅に関する事項 -----	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量 に関する事項 -----	7

< 参考図 >

伊木力川水系流域概要図

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 伊木力川流域の概要

伊木力川は、長崎県西彼杵郡多良見町に位置し、琴ノ尾岳(451.4m)を源として急峻な谷を形成しながらほぼ北に流れ、野川内郷地内を流下した後、伊木力地区舟津郷地先で大村湾に注ぐ、流域面積約8.3km²、幹川流路延長約3.1kmの二級河川です。主な支川として、山川内郷地内を流下し舟津郷地内で伊木力川に合流する山川内川があります。

流域の気候は、冬は暖かく夏は涼しい西海型気候区に分類され、年平均気温は約17度、年降水量は約2,000mm(長崎海洋气象台)となっています。

伊木力川の上流域には、安山岩や凝灰角礫岩などにより形成された標高200m~400mの山々が連続しており、大村湾を一望することのできる琴ノ尾岳周辺域は、大村湾県立自然公園に指定されています。一方下流域には、河川沿いに沖積低地が形成されており、田畑や住宅地となっています。

流域内の広い地域で栽培されているみかんは、江戸時代の末期から200年余りにわたり改良が積み重ねられ、現在では多良見町を代表する特産品「伊木力みかん」として全国に出荷されています。

多良見町は、大村湾の背後にそびえる多良岳の連峰を望む位置にあることから「多良見」と名付けられています。この地域の歴史は、昭和57年長崎水害の復旧作業中に発見された伊木力遺跡の遺物から、人の定着が縄文時代に遡ると見られています。伊木力川沿川に分布する伊木力遺跡・船津遺跡・山川内遺跡などからは、縄文・弥生時代~古墳時代・中世にわたる遺物が出土しています。特に、中国大陸との文化交流が感じられる遺物も見つかり、縄文人が東シナ海を渡り大陸と交流していたものと考えられています。

伊木力川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は以下のとおりです。

治水の概要

伊木力川沿川では、昭和32年7月の諫早水害や昭和57年7月の長崎大水害等の際に、家屋・農地の浸水被害が繰り返し発生してきました。特に長崎大水害においては、土砂の流出も多く、浸水・崩壊家屋36戸、浸水農地14haの災害を被っています。この災害に対する復旧工事により、伊木力川及び支川山川内川の河道の整備が実施されています。しかしその後、伊木力川下流域では小学校や多目的研修施設、生涯学習センターなどの公共施設や病院、老人ホームなどといった施設の集積が進み、これまで以上に治水対策を進める必要性が増してきています。

利水の概要

伊木力川の河川水は、古くから沿川農地のかんがい用水として利用されてきました。現在は、河道内の固定堰や床固工地点からの取水により沿川の水田約 25ha のかんがいが行われています。しかし、昭和 42 年や 53 年、平成 6 年などの渇水時には、しばしば深刻な水不足に見舞われており、特に昭和 42 年渇水では、河川は水涸れし、地下水の汲み上げも困難な状況が発生しています。また、多良見町は長崎市と諫早市の間に位置し、交通の便が良いことから、宅地開発により年々人口が増加しており、生活様式の向上ともあいまって、今後の水需要の増加が予想されています。

このため、新たな水資源開発施設による安定的な水の供給が望まれています。

自然環境及び河川利用状況

伊木力川流域では、本川である伊木力川と支川の山川内川が、河口から約 1.2km 付近で合流し大村湾に注いでいます。

合流部付近から上流の区間の地形は急峻な山地がそのほとんどを占めており、その山間部を伊木力川及び山川内川が蛇行しながら流下しています。河川沿いには低地が形成され主に耕作地や住宅地として利用されており、その背後には山地が迫り、昔ながらののどかな山間の田園風景を呈しています。山地斜面は、シイ・カシ萌芽林やスギ・ヒノキ植林などの樹林地で覆われ、山裾には広くみかん畑が営まれています。

山間低地を流れる本川の伊木力川上流は、河岸がコンクリートブロックで構築されているものの河道内には瀬と淵が交互に形成され、河床は礫や玉石で構成されています。水際の砂礫州にはツルヨシ等の水生植物が繁茂しており、水生生物にとって良好な生息場が形成されています。

また、支川の山川内川は、河岸がコンクリートブロックで構築され、急流な河道を安定させるための落差工などの構造物も多く配置されていますが、河道内には河川の蛇行にあわせた瀬と淵や砂礫州が形成されており、また山沿いの場所などでは河畔林が水際を覆い、カワムツやヨシノボリなどの魚類の良好な住みかとなっています。そこには魚類を捕食するカワセミなどが飛来するなど生物にとって良好な河川環境となっています。一方、河道内の床固工などの横断構造物を利用した河川プールや河畔の親水公園では、夏季に子供たちの水遊びをする姿も見られます。

山川内郷集落のさらに上流域では、河床に岩が露出し河岸に山地斜面が迫る溪流形態の河川が形成されています。瀬や淵が適度に続く河道では、カワムツ、ヨシノボリ類などの魚類に加え、ゲンジボタルなどの溪流性の昆虫が確認されています。一方、シイ・カシ萌芽林などの樹林地で覆われる河川周辺一帯には、多様

な動植物が生息しており、特に貴重種としては、植物では林床に生育するエビネ（絶滅危惧 類）や尾根や岩場などに見られるダンギク（絶滅危惧 類）など、また鳥類では上空を飛翔するミサゴ（準絶滅危惧）、オオタカ（絶滅危惧 類）などの猛禽類の姿が確認されています。

伊木力川と山川内川が合流する付近から下流では、河床勾配も比較的緩くなり、河川沿いに広がる水田地帯の中を緩やかに流下しています。また、水田地帯背後の山地斜面にはみかん畑が広く営まれ、その間にスギ・ヒノキ植林やシイ・カシ萌芽林が分布しています。

水田地帯を流下する河道は、その両岸がコンクリートブロックで構築されているものの、瀬・淵や湛水部が交互に続き、小規模な砂礫州も形成されています。水際部にはヨシやジュズダマなどの湿地性植物が広く生育しており、カワムツ、ギンブナ、ヨシノボリなどの生息できる環境が形成されています。また、伊木力川周辺では、タヌキ、イノシシ、ノウサギ、カヤネズミなどの哺乳類や、キジなどの鳥類の生息が地元の方々によって確認されています。

伊木力川での河川利用としては、河畔の散策などが主ですが、年に1～2回、川まつりが伊木力川沿川地区毎に催されています。

水質に関しては、公共用水域の類型指定を受けていませんが、松手地点^{まつで}における平成2年～平成11年のBODの平均値は1.4mg/lで、概ね良好な水質であるといえます。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

長崎県では、長期総合計画の中で「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」、
「自然環境と人々が共生する社会づくり」を政策に掲げ、安全で快適な生活環境
づくりをめざしています。

伊木力川の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会、経
済の発展に係わる諸計画（多良見町第4次総合計画等）との調整を図りながら、
水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図って
いきます。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の
集約、河川の整備・保全に係る取り組みの促進・支援を行い、地域住民と連携し
た川づくりを行います。

1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

伊木力川は、昭和32年や昭和57年の水害を考慮し、計画規模の降雨によ
り発生する洪水を安全に流下させることのできる整備をめざします。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等
に対しては、洪水による被害を最小化するために、関係機関と連携して警戒避難
及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施するとともに、ハザー
ドマップ作成に向けた協力を行います。さらに、災害に強い地域づくりのため、
土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境 の整備と保全に関する事項

河川水の利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、上流に建設する水資
源開発施設により水資源を合理的に活用するとともに、地域住民や多良見町等
関係機関との緊密な連携のもと適正かつ合理的に水利用がなされるよう努め
ることにより、既得利水や新規利水の安定的な供給を可能とし、かつ良好な水
環境の保全に努めます。

また、河川環境の整備と保全に関しては、ヨシ・ツルヨシ等が生育する水際
の砂礫州や瀬・淵などの多様な形態の保全と復元、ヨシノボリなどの魚類の行
き来を妨げる落差の解消など、変化のある連続した生物の生息・生育環境の整
備と保全に努めます。また、地域住民の憩いの場・遊びの場として利用されて
いる河川プールや河畔公園などの親水施設の利用を促進するなど、人がより多
く川に親しめるような河川空間の整備を図ります。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から適切に行います。

特に、当河川は勾配が急なことから、河床を安定化させるために多くの床固工が配置されています。そのうちの落差工には魚が移動しやすいよう斜路や魚道の整備も行われています。また、河床部には所々深く洗掘を受けた場所もあり、これらは生物の生息場としての淵の機能を持っていますが、過度な洗掘は護岸や床固工などの河川構造物の機能を損なうおそれがあります。そのため、これらの河川構造物については、防災上の施設機能を維持するとともに、生物の生息・生育や移動に留意した維持管理を行います。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、基準地点^{えいだいばし}永代橋において $220\text{m}^3/\text{s}$ と設定します。
 このうち、洪水調節施設により $50\text{m}^3/\text{s}$ を調節することにより、河道への配分流量を基準地点において $170\text{m}^3/\text{s}$ とします。

基本高水のピーク流量等一覧表

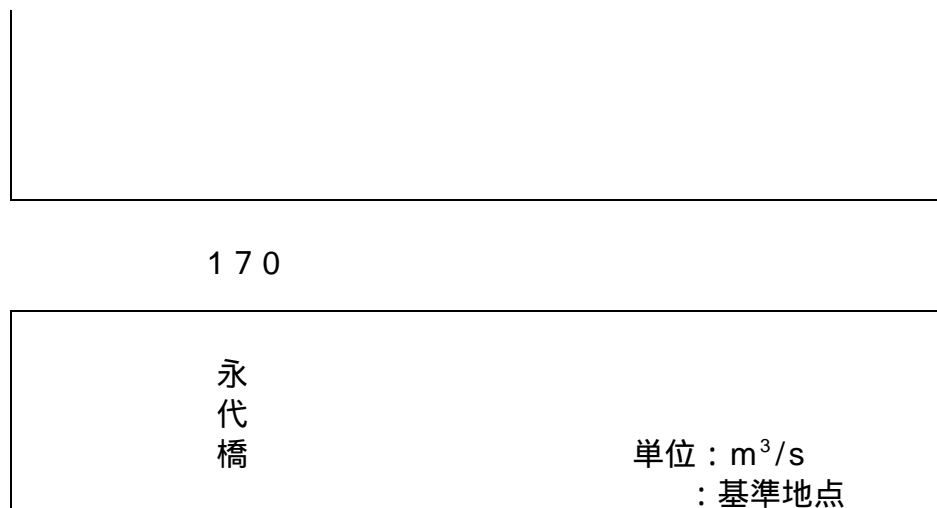
(単位： m^3/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
伊木力川	永代橋	220	50	170

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

伊木力川における計画高水流量は、基準地点永代橋において $170\text{m}^3/\text{s}$ とします。

大村湾



伊木力川計画流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川 幅 (m)	摘 要
伊木力川	永代橋	1 . 0	+ 9 . 5 7	2 0	基準地点

(注) T.P. : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

伊木力川における水利用としては、農業用水として約 25 ha の水田に対する慣行水利があります。

松手^{まつて}地点における昭和 15 年～平成 11 年の算出流量は、平均濁水流量で約 0.0 3 6 m³/s、平均低水流量で約 0.0 9 7 m³/s です。

同地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、利水の現況、動植物の保護等を考慮して、かんがい期約 0.0 4 3 m³/s 及び非かんがい期 0.0 4 5 m³/s とします。

なお、当該流量は、松手地点上下流の水利用の変化にともない増減します。

